



KANDAHAR

モフセン・マフマルバフ監督作品

カンダハール

2001年カンヌ国際映画祭エキュメニク賞(国際キリスト教会審査員賞)

2001年ユネスコ〈フェデリコ・フェリーニ〉メダル

日本国連HCR協会(国連難民高等弁務官事務所 日本委員会)推薦

妹を救うため、アフガニスタンに帰る女性ジャーナリスト
荒廃した祖国にたくましく生きる人々に支えられ、彼女はカンダハールへの旅を続ける
この見捨てられた大地に、生きる希望を見いだしながら…

監督・脚本・編集:モフセン・マフマルバフ、撮影:エブラヒム・ガフーリ、音楽:モハド・レザ・ダルビシ、録音:ペルーズ・シャハマト、カーウェ・モインファール●ニルファー・バズイラ(ナファス)、ハッサン・タンタイ(タビブ・サヒブ)、サドュー・ティモリー(少年ハク)、ハヤトラ・ハキミ(ハヤト)●イラン=フランス合作(Makhmalbaf Film House+ Bac Films)●2001年、カラー、モノラル、1時間25分(4巻)、ビスタ(1:1.85)●配給:オフィスサンマルサン

モフセン・マフマルバフ監督作品

カンダハール KANDAHAR



報道では知りえないアフガン民衆の真実がここにある！
シュールな美に包まれた、衝撃と感動のドラマ。

◆“今、世界で最も重要な映画”(英ガーディアン紙)として、ヨーロッパ各地やカナダで大ヒットを続けるイランの若き巨匠モフセン・マフマルバフの最新作『カンダハール』。妹を救うため、20年にわたる戦乱で荒廃した祖国アフガニスタンに帰還した女性ジャーナリストのカンダハールへの旅を、詩的イマジネーション豊かな映像で描きだし、「国際社会から見捨てられた」アフガン民衆に対する世界に無知を告発した傑作である。

◆主人公のナファスを演じるのは、実際にアフガニスタンからカナダに亡命した女性ジャーナリスト、ニルファー・バズィラ。彼女はある日、アフガニスタンのカブールに住む友人から自殺をほめかす絶望的な手紙をうけとった。彼女は、その手紙を持ってイランのマフマルバフ監督を訪ね、「アフガニスタンへ向かう私の旅を撮影してほしい」と依頼。すでに13年前にも『サイクリスト』という作品でアフガン難民を取り上げた経験を持つマフマルバフは、ふたたびアフガニスタンについての調査を行い、ドキュメンタリーとして撮った時のスタッフ、特に当事者のニルファーへの危険度を考慮し、最終的には、カブールをカンダハールに変え、友人を妹に変えて、フィクションとして映画化した。

◆主人公ナファスの旅は、イラン国境の難民キャンプから始まり、アフガン難民の一家、神学校(マドラサ)を放校された少年、ソ連と戦うために来たアフガンで、今は住民の診療を続けるブラック・ムスリムのアメリカ人などの人々との交流を重ねながら続いていく。時にはたくましく生きる人々のユーモアを交えながらも、ここに描かれた、飢餓と貧困、女性に対する抑圧、そして地雷で傷ついた人々の群れといった、アフガニスタンの現実をまさに息を呑む迫力である。現在すでにアメリカを含めた世界38カ国以上での公開が決まっている。



『カンダハール』を報じる国際ニュース

●2001年5月、カンヌ国際映画祭にて『カンダハール』初上映、エキュメニク賞を受賞。●同5月、ユネスコより「その人道的な価値と芸術的な貢献によって」ユネスコフェデリコ・フェリーニメダルが授与されることが発表される。
●10月3日、パリのユネスコ本部で開かれた第162回ユネスコ総会にて特別上映され、(フェデリコ・フェリーニ)メダルの授与式が行われ、監督と主演のニルファー・バズィラが出席し、その模様はAFP通信を通じて世界に配信された。
●また、同日ユネスコ本部にて、アフガニスタン支援策を打ち出したルケンブルグのマリア・テレサ大妃殿下が、『カンダハール』がアフガニスタンへの人道的な関心を喚起していると感謝する声明を発表。
●ニルファー・バズィラ、ユネスコ文化大使の次期候補に任命される。
●10月12日、イタリアで劇場公開される。公開規模は24館(その後107館まで拡大)で、興行成績1位を記録。
●10月24日、フランスで公開。71館で上映され12位にランクイン。
●アメリカのブッシュ大統領が『カンダハール』を見たいと望み、フランスから英語字幕付きプリントをホワイトハウスに送付。
●10月24日、ニューヨークのコロロンビア大学で行われた「9月11日の犠牲者を悼む集会」で『カンダハール』が上映され、主演のニルファー・バズィラがスピーチを行う。
●10月、マフマルバフ監督、アフガニスタンの子供達の教育の貧困、およびイラン国内にあるアフガン難民キャンプにおける教育の現状についての緊急メッセージを発表。
●10月26日、カナダで公開。興行成績1位を記録。
●11月16日、イギリスで公開。ニルファー・バズィラがロンドンを訪れ、会見を行う。
●11月、イタリアでの観客数が60万人を超える。
●アメリカでも1月公開が決定。

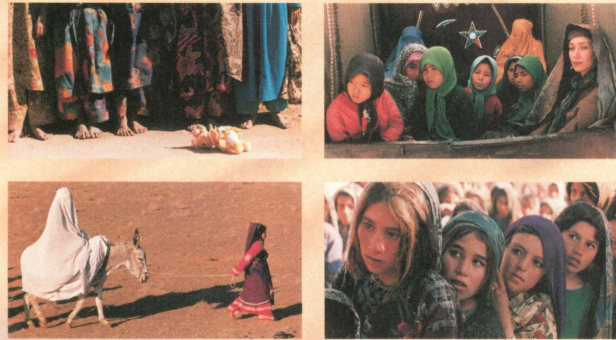
監督・脚本・編集:モフセン・マフマルバフ、撮影:エブラヒム・ガフール、音楽:モハメド・レザ・ダグズビ、録音:ペルーズ・シャハマト、カーウェ・モインファール ●ニルファー・バズィラ(ナファス)、ハッサン・タンタイ(タビブ・サヒブ)、サドゥー・ティモリー(少年ハク)、ハヤトラ・ハキミ(ハヤト) ●イラン・フランス合作(Makhmalbaf Film House+ Bac Films) ●仏原題:KANDAHAR、イラン原題:SAFAR E GANDEHAR(カンダハールへの旅) ●2001年、カラー、モノラル、1時間25分(4巻)、ビスタ(1:1.85) ●日本語字幕:石田泰子、字幕監修:ショール・ゴルバニアン ●宣伝:ムヴィオラ、宣伝協力:チャンネルアジア ●宣伝デザイン:nix graphics

協力:日本国連HCR協会(国連難民高等弁務官事務所 日本委員会) www.japanforunhcr.org

マフマルバフ監督によるアフガニスタンレポート

「アフガニスタンの凶像は破壊されたのではない、恥辱のあまり崩れ落ちたのだ」
モフセン・マフマルバフ著、現代企画室刊(1300円+税)

配給:オフィスサンマルサン BOX



映画『カンダハール』は2000年に撮影された。「国際社会から見捨てられた」人々のために。



2月2日(土)よりロードショー

終映日は劇場まで

①11:20 ②1:10 ③3:00 ④4:50 ⑤6:30 [入替制]
前売券 ¥1400 発売中…劇場窓口、びあ、ローソン、市内プレイガイドにて

(財)日本ユニセフ協会推薦

＜ACEMアフガン子ども教育運動＞へユニセフを通して寄付

◆ACEM支援募金箱を設置 [上映期間中]
◆ACEM募金付チャリティチケット¥1600発売中 [窓口のみ]

心齋橋アメリカ村 BIG STEP 4F

パラダイスシネマ (6282) 1460

4

日録
天竺丸

↑ 西陣田
● もこご

↑ 御堂筋
● 大丸

↑ 清水町
● 三和BK

↑ 東区
● 三和BK

↑ 西陣

BIG STEP 4F

お米
ギョーリー